

川名清水谷戸

八柳 修之

神光寺横穴古墳群の先に藤沢三大谷戸の一つ川名清水谷戸がある。川名清水谷戸は藤沢市市政施行 70 周年を記念して、市民が選んだ「わがまちふじさわ景観ベストテン 10」に選ばれ記念切手にもなっている。

谷戸の西側は新林公園、藤沢駅から 1 Km ほどで市内でも数少ない残された里山である。入口には案内掲示板があり、すぐ分かるが無論駐車スペースなどはない。入ると右側はもろい砂岩泥岩の露頭、左側は耕作地だが道の脇に幅 1 m 程の小川が流れており、今では見られなくなったミズスマシがうやうや泳いでいる。以前、夏には蛍が観られたそう。20~30m ほど進むと視界が広がり身の丈以上のヨシが一面に生えている。道なりに進むと左側にハス田があるが今年は耕作されていないようだ。路は行き止まりとなるが、右側の岩の上にぽっくりと大きな穴が開いている。横穴古墳であるが下から写真を撮るにとどめる。



今来た道に戻ってさっきスルーした左側の路へ。ヨシが生い茂り全貌が分からない。突き当りに作業小屋があり道なりに進むと、谷戸の全貌が見渡せる路に出る。ヨシが所々規則的に刈り取られている。川名里山レンジャーの標識がある。谷戸を観察、管理、維持している環境保全団体である。谷戸も管理、維持されていなければ荒れ放題となり、このように見学することは出来ない。感謝である。道の左側の斜面は急なうようで、植生は広葉樹林の雑木林となっている。分水嶺は藤沢市と鎌倉市との境界で片瀬北公園付近から下って来る小道は何度か FWA の例会でも歩いたことがある。この道の下にトンネルが掘られ片瀬北公園付近に出て来るのだろう。先を進むと突き当りが川名大池である。この地点は一段高くなっており、ここから川名谷戸全体が見渡せる。手前に昨年まで水田があったが、今年は耕作されておらずヨシが生えていた。



川名池から見た谷戸全景

谷戸の池（川名池）があり、この地点から今はヨシが生えている水田、耕作地に水を供給する溜池であった。廣田三郎著の「村岡史話」によると、用水池（溜池）は、日清戦争のあった明治 27 年の干ばつが大きく影響しているという。新林公園にある新林の池とともに山を打ち抜いて用水路を造り当時としては村民の手による大工事であったとのことである。川名池については受益水田となる人々が集まって砂川清右衛門の所有地を水田にしたという。戦後、昭和 30 年代、耕作する農民の写真を見たことがあった。公民館の図書室に聞いたが分からぬという。そういう歴史があったかは知らず、池の淵で釣り糸を垂れっていた人がいた。聞くとブルーギルが釣れるそうである。ブルーギルは外来種で臭くて食用にはならないので釣れたら池に戻すという。池の周りを一周する小径があり、以前歩いたことがあったが笹で覆われ危険なので止めた。

さて、川名を通る鎌倉みちで述べたが、川名交差点から国道 467 号線片瀬地区までの川名工区約 1.8km が現在も調査区間となっており工事は中止されていることは前に述べた。神奈川県が行った「都市計画道路横浜藤沢線川名工区環境調査結果（概要）」を見つけたので、どんな動植物の生存が確認されたかを紹介する。

動物：アカネズミ、タヌキ、アマガエル、ウシガエル。鳥類：シジュウカラ、ウグイス、メジロ。昆虫：トンボ、バッタ類、ホタル、テントウムシ、チョウ、ユスリカ、アメンボ、植物：コナラ、クヌギ、ヨシ。魚類：ブルーギル、オオクチバス。そのほとんどが、ごく最近まで日常目にしたことがある動植物である。トンネル工事はトンネルの先の片瀬住民の反対もあり全く進んでいない。完

写真は一部無料画像を使用しました。半径 500m 以内のシリーズは 7 をもって終了いたします。お読みいただき有難うございました。